

講演のポイント

「地域医療を支えるための県民シンポジウム」における岩手県知事の講演で、地域医療基本法（仮称）の制定に向けた取組を紹介しました。

【知事講演のポイント（要旨）】

現在、地域医療は、医師の不足と地域偏在という危機的な状況の中にあり、現場の医師の皆さんの献身と志によって支えられているのが現状です。

今後、高齢化による医療需要の増大等によって地域医療を支える医師のみなさんが、今よりも更に過酷な勤務にさらされることになれば、地域医療は崩壊しかねません。

医師の働き方改革についても議論されていますが、そもそも医師の偏在が医師の過剰な負担や勤務に繋がっており偏在是正に徹底的に取り組まない限り、働き方改革もあり得ないと考えます。

岩手県では、医師確保対策や県民総参加型の地域医療を支える取組などを進めています。各都道府県でも奨学金による医師の養成をはじめ、医師の不足と偏在の解消に向けて様々な取組をおこなっています。しかし、都道府県だけの取組では限界があります。

地域医療のあるべき姿を実現するためには、医師の地域偏在の根本的な解消に向けた全国レベルでの施策が不可欠です。

そのため、岩手県では、医師不足や偏在を根本的に解消するため、「地域医療基本法（仮称）」の制定を全国に向けて提言しています。

岩手県では、ひきつづき、県民総参加型の地域医療体制づくりに向けた県民運動を展開していくとともに、「地域医療基本法（仮称）」の制定に向けた取組を進めて参りたいと考えております。

地域医療のあるべき姿を実現するために

地域医療は、医師の不足と地域偏在という**危機的な状況**の中であって、**地域の医師達の献身と志**によって支えられている。

高齢化による医療需要の増大や、**医師の働き方改革**への対応等も求められる。

地域医療のあるべき姿を実現するためには、**国全体で地域医療を守る仕組み**、そして、**地域医療に携わることで医師が成長し、研鑽を積むことにも繋がる仕組み**が必要

本日のまとめ

医師の地域偏在を根本的に解消するには、全国レベルの施策が必要

岩手県は、従来から、国レベルで医師の不足と偏在の解消を図る**「地域医療基本法（仮称）」**の制定を提言

国においても、具体的な施策が議論されているが、医師の不足と偏在を解消し、地域医療、そして日本の医療の未来を守るためには、より実効性のある施策に国を挙げて取り組むことが必要

岩手県としては、地域医療のあるべき姿を実現するため、県民総参加型の地域医療体制づくりに向けた県民運動を展開していくとともに、「地域医療基本法（仮称）」の制定に向けた取組を進めて参りたい。